



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

病院の移転

石川県立中央病院 呼吸器内科 谷 まゆ子

今年のお正月早々、私が勤務している石川県立中央病院は、1976年から使い続けられた建物から、隣の敷地にできた新病院へと移転しました。また、同時に電子カルテシステムが別の会社のシステムに切り替えとなりました。移転に向けて準備に追われた日々を少し振り返らせていただきます。

石川県立中央病院の建替えは2010年から計画され、約7年の期間を経て昨年10月に待望の新病院が完成しました。完成後は引越しの準備が始まり11月末からはPET-CTやMRIが順次使えなくなり、入院患者数も絞るようとの指示がありました。引越し当日の患者さんの安全な搬送と、慣れない電子カルテシステムでトラブルを起こすリスクの低減のため、早めの施設退院や転院の調整を行い、患者数を減らす努力を続けました。しかし、思うようには進まず、引越し当日までに目標人数を達成するのは難しいのではないかと心配していました。そんな私の心配をよそに、実際には12月下旬になると病院全体の入院患者数が減少し始め、移転当日にはおおよその目標人数となっていました。後で話を聞くと、事前に内科での入院患者数を抑え、移転直前に外科の予定手術を絞る方針で人数調整が計画的に進められていたそうです。

年末・年始にかけて、使用予定の処方薬や点滴は事前に新病院の該当病棟へ運び込まれ、患者さんの病状悪化や急変が起こらないようにと緊張する日々になりました。電子カルテ情報移行のため、引越しの前々日からは、カルテは閲覧のみに制限され、引越し前日には情報の閲覧も出来なくなりました。

1月4日、引越し当日は病院スタッフ総出で出勤し、患者さんの移送と病棟に残っていた物品の移動を行いました。車いすやベッドで移動してきた患者さんたちが新しい病室に入り終え、新しい電子カルテも起動して漸く一安心。旧病院と新病院の間に何か所も救護班を配備するなど万全の備えのなか、大きなトラブルなく引越しが完了しました。

続いて1月9日に新病院での外来診療が開始となりました。事前に新しいカルテシステムを用いたシュミレーションを繰り返して開院当日を迎え、患者さんやお見舞いの方の不便がないよう複数のスタッフが案内に立つなどの対応が行われました。移転当初はスタッフだけではなく患者さんも慣れない環境で戸惑っている様子もありましたが、今ではすっかり落ち着いた日常が戻っています。

病院の移転のというタイミングで県立中央病院に勤務させていただき、移転前後の診療に関わる機会を持ちました。小さな備えを一つずつ重ねていくことで大きな事業も安全に成し遂げられるということを体感し貴重な経験となりました。